

基本構想

第1章 霧島市の姿

第2章 まちづくりの目標

第 1 章 霧島市の姿

第 1 節 市の概要

(1) 位置と地勢

本市は、薩摩半島と大隅半島を結ぶ鹿児島県本土のほぼ中央部に位置し（東経130度45分、北緯31度44分）、南に雄大な桜島を望む錦江湾北岸に面したまちです。

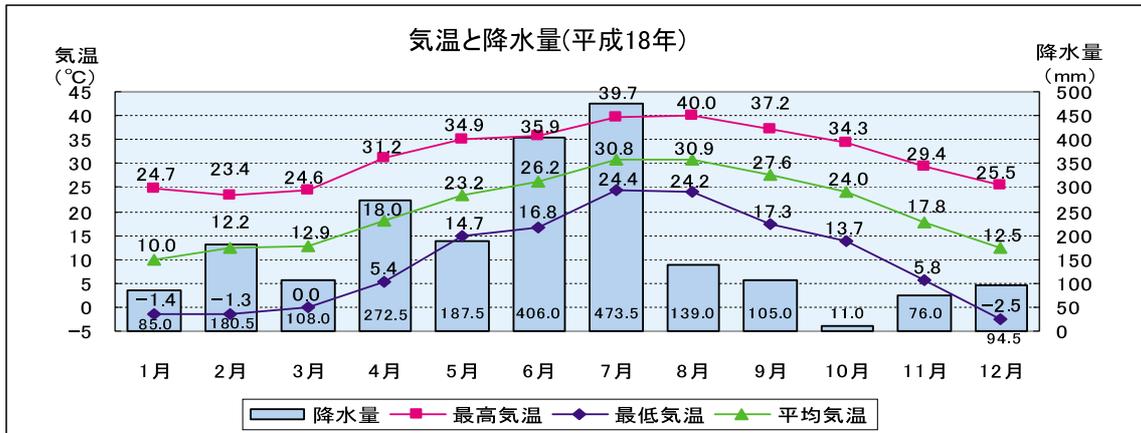
市域は、東西が約30.7キロメートル、南北が約37.5キロメートル、総面積は603.68平方キロメートルで、県総面積9,187.69平方キロメートルの約6.6%を占め、県内の市町村で2番目の広さとなっています。

市の北部には国立公園に指定されている風光明媚な霧島連山を、南部には波静かな錦江湾に面した豊かな平野部を有しており、霧島山系から裾野、平野部を経て錦江湾まで流れる天降川、その流域に広がる田園、そして山麓から平野部にわたる多くの温泉群を有しており、山、川、海、田園、温泉などの多彩で豊かな資源に恵まれた地域です。また、空港、高速道路及び鉄道等も整備されており、南九州の交通の要衝となっています。



(2) 気象

平成18年の本市の気象は、平均気温が20.5、年間降水量が2,139ミリメートルとなっています。



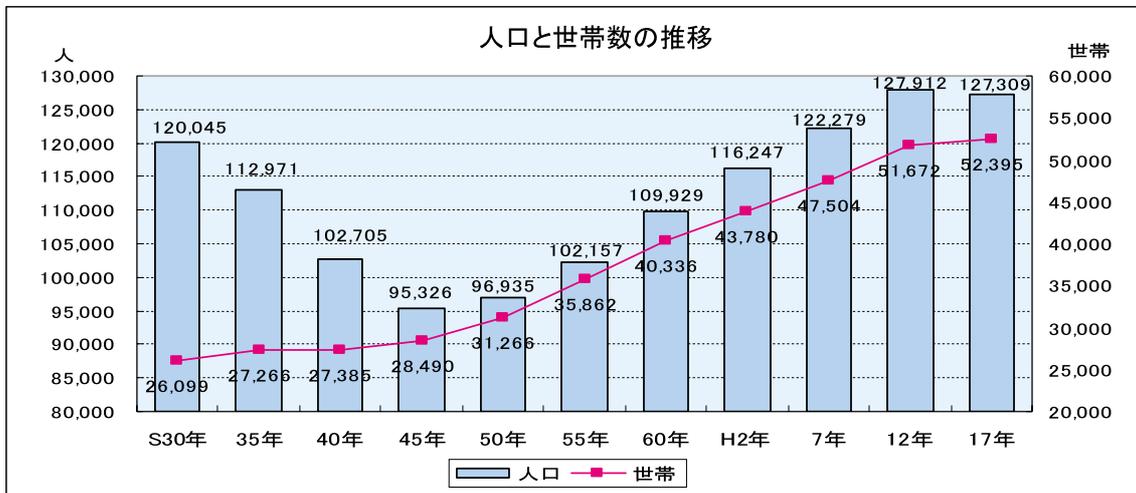
資料：霧島市消防局情報司令課気象データ

(3) 人口

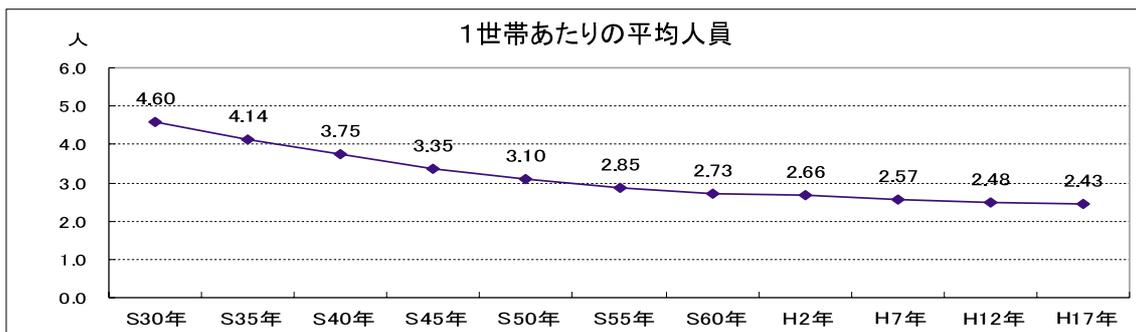
①総人口と世帯数

平成17年の国勢調査によると、本市の総人口は127,309人で平成12年の前回調査時より0.5%減少していますが、総世帯数は52,395世帯で前回より1.4%増加しています。

昭和45年以降の推移を見ると、総人口は平成12年まで増加傾向にありましたが、平成17年には減少に転じています。一方、総世帯数は引き続き増加傾向にあり、本市においても核家族化の進行がうかがえます。



資料：国勢調査

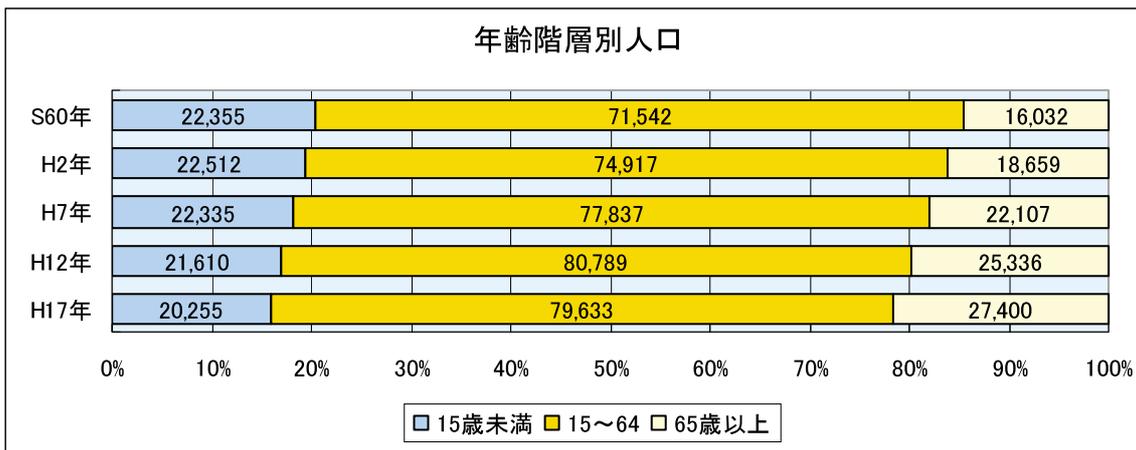


資料：国勢調査

②年齢階層別人口

平成17年の本市の年齢階層別人口は、15歳未満の人口が20,255人（15.9%）、15歳から64歳の人口が79,633人（62.6%）、65歳以上の人口が27,400人（21.5%）となっています。

年齢階層別人口の構成比の推移をみると、昭和60年から平成17年の20年間で15歳未満の人口の割合が4.4ポイント減少する一方、65歳以上の人口の割合は6.9ポイント増加しており、本市においても少子高齢化が進行しています。



注：年齢不詳分があるため、各階層の合計と前頁の総人口とは一致しない。

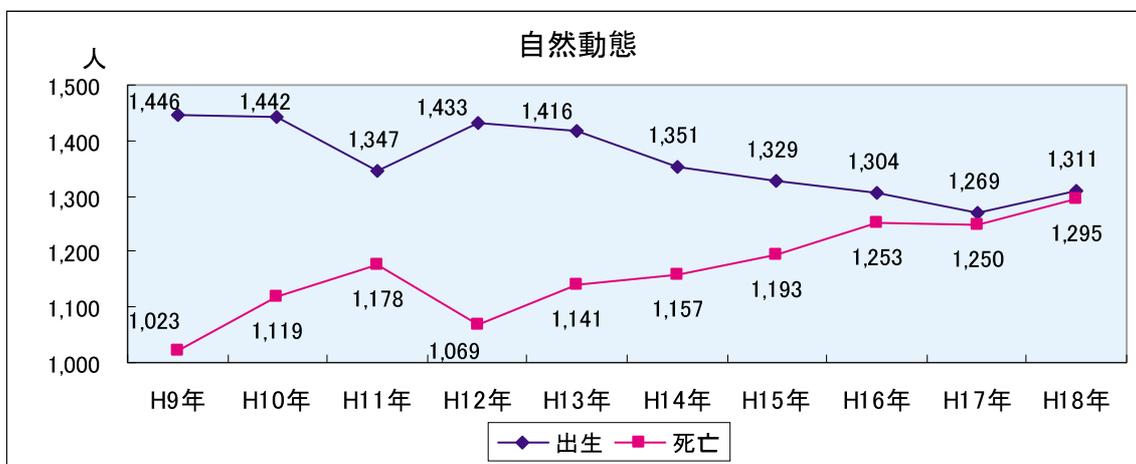
資料：国勢調査

③人口動態

ア．自然動態

平成18年の自然動態は、出生数が1,311人、死亡数が1,295人で出生数が死亡数を16人上回っています。

過去10年間の推移をみると、いずれの年も出生数が死亡数を上回っていますが、その差は年々小さくなる傾向にあります。

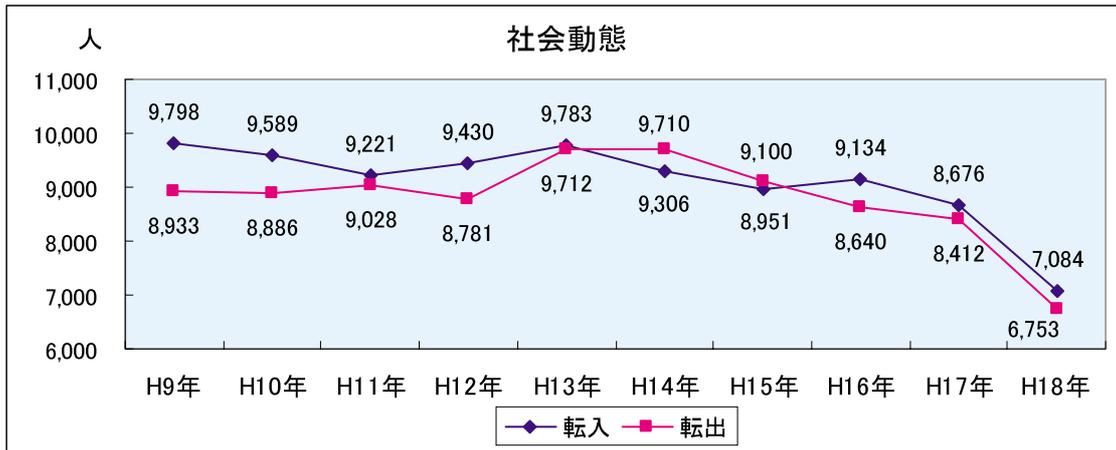


資料：鹿児島県人口移動調査

イ. 社会動態

平成18年の社会動態は、転入者数が7,084人、転出者数が6,753人で、転入者数が転出者数を331人上回っています。

過去10年間の推移をみると、平成14年から平成15年にかけては転出者数が転入者数を上回っていますが、そのほかの年では転入者数が転出者数を上回っています。



注：H17年10月以前については旧1市6町間の異動も件数に含まれる。

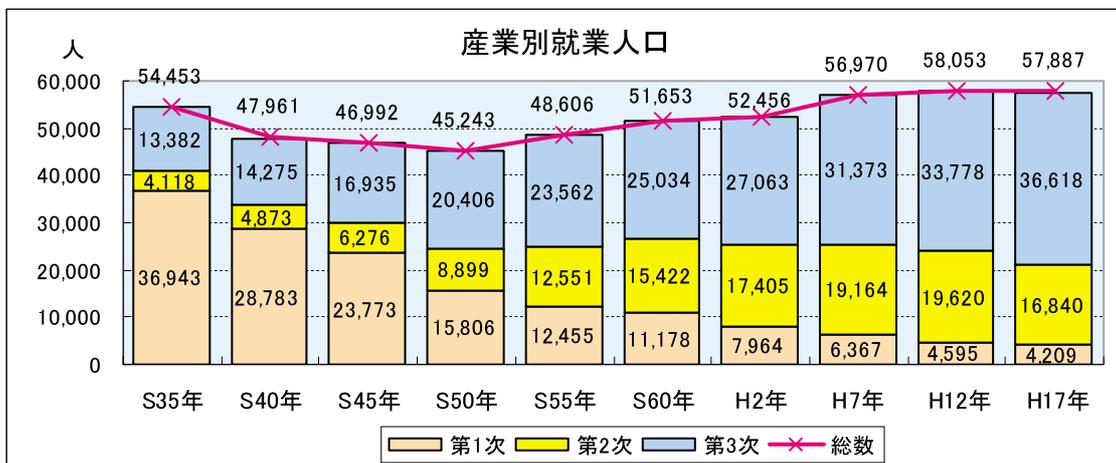
資料：鹿児島県人口移動調査

(4) 産業

①産業別就業人口

平成17年の就業人口は、57,887人（分類不能の就業者含む）で、第1次産業が4,209人（7.3%）、第2次産業が16,840人（29.1%）、第3次産業が36,618人（63.3%）となっています。

昭和60年と比較すると、第1次産業の割合が14.3ポイント減少する一方、第3次産業は14.8ポイントの増となっており、第1次産業から第3次産業へと就業人口の構成比の移行が見られます。



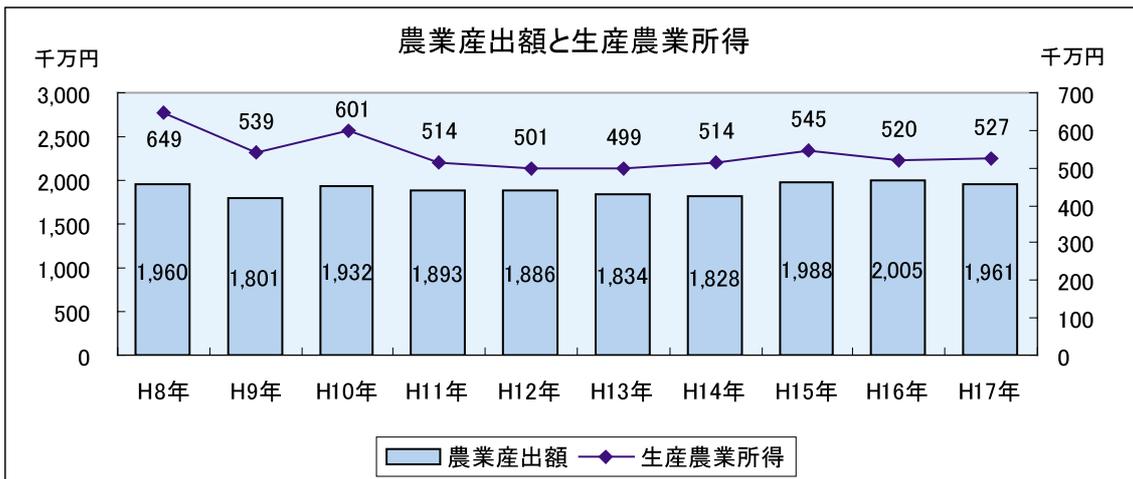
注：総数には分類不能の就業者を含む。

資料：国勢調査

②農業産出額と生産農業所得

平成17年の農業産出額は196億1千万円、生産農業所得は52億7千万円となっています。

平成8年以降の推移をみると、農業産出額についてはほぼ横ばいの状態となっています。生産農業所得については平成8年から平成11年にかけて減少傾向が見られるものの、その後はほぼ横ばいの状態で推移しています。

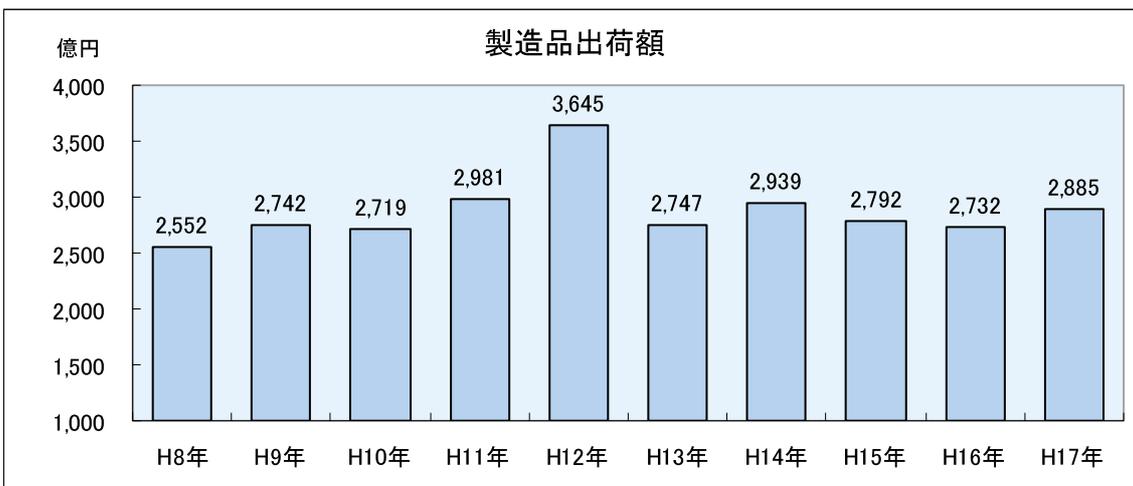


資料：生産農業所得調

③製造品出荷額

平成17年の製造品出荷額は、2,885億円となっています。

平成8年以降の推移をみると、平成12年に情報通信技術関連企業の出荷額の増加による一時的な増加がありましたが、その後はほぼ横ばいの状態で推移しています。

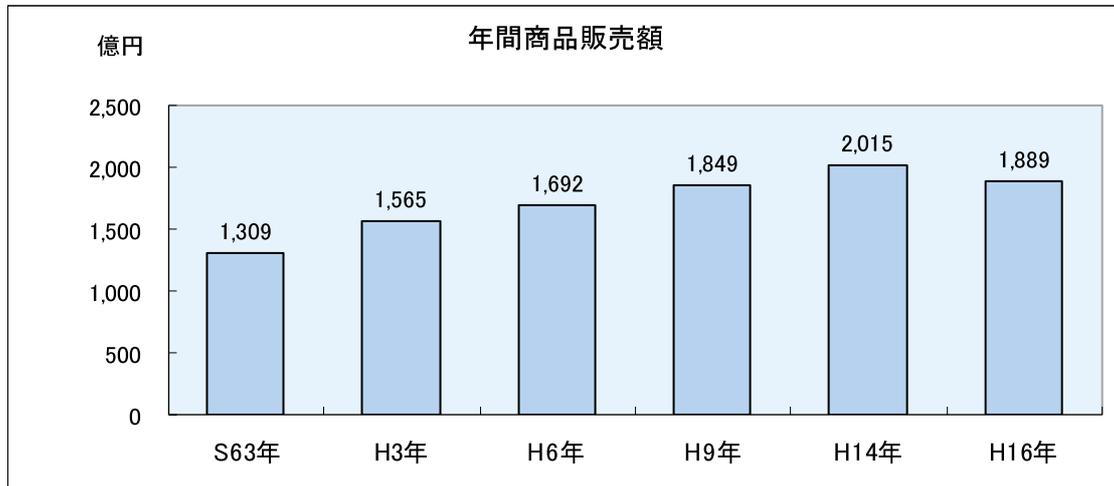


資料：工業統計調査

④年間商品販売額

平成16年の年間商品販売額は、1,889億円となっています。

昭和63年以降の推移をみると、平成14年から平成16年にかけて減少がみられますが、全体的には年々増加傾向にあります。

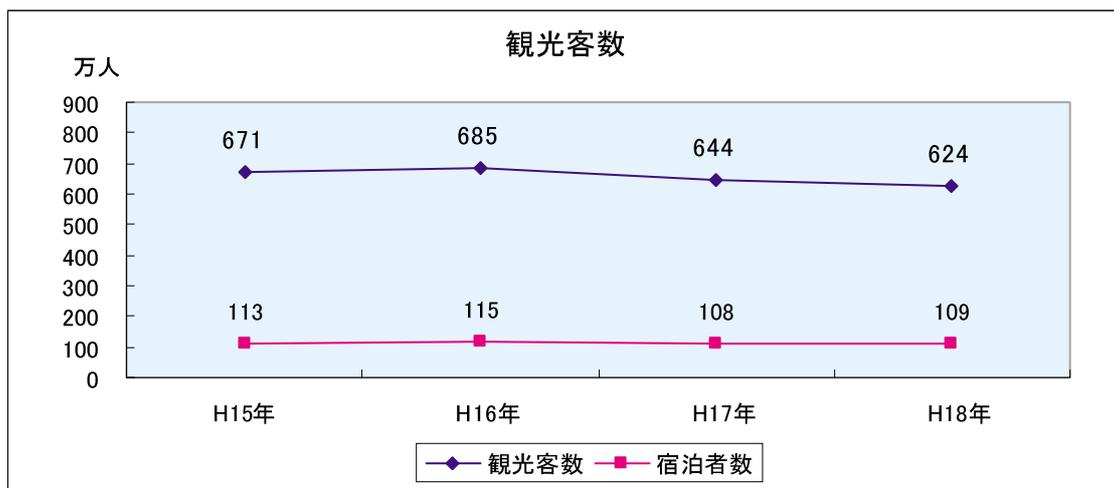


資料：商業統計調査

⑤観光客数

平成18年の観光客数は624万人、宿泊者数は109万人となっています。

過去3年間の推移をみると、観光客数は減少傾向にありますが、宿泊者数についてはほぼ横ばいの状態で推移しています。



注：観光客数のH15年～17年については、福山地区の分は含まれていない。資料：観光課